

えひめ 健康だより

2000年
11月
No. 2



「がん征圧県民大会」開催

肺がんデジタル検診

水の健康診断のすすめ

・わたしの街から - 伊予三島市保健センター



財団法人 愛媛県総合保健協会

「がん征圧県民大会」 開催

9月20日(水)

13:00~16:00

愛媛県県民文化会館
サブホール



9月の「がん征圧月間」にあわせ「がん検診を受けてかがやく このいのち」をスローガンに、「がん征圧県民大会」(主催 愛媛県・(財)愛媛県総合保健協会・愛媛県厚生農業協同組合連合会・エヒメ健診協会)が開催されました。

女優の中原ひとみさんの講演や、医師・保健婦らによるパネルディスカッション、肺がん、乳がんなどの無料検診がおこなわれ、約800人が参加しました。

(大会組織委員長 (財)愛媛県総合保健協会理事長 村上 郁夫 あいさつ より)

今回は初めての試みとして、愛媛県並びに(財)愛媛県総合保健協会、愛媛県厚生農業協同組合連

合会、エヒメ健診協会の検診三団体の四者共同により開催できましたこと、心から喜んでおります。

ご承知のとおり、「がん」による死亡者は毎年増加の一途をたどり、愛媛県におきましても3,800人を超えております。この中に、40才・50才代の働き盛りの方が多く含まれておりますことは、医療の場に身を置く立場の一人として、心を痛めているところでございます。

しかし、「がん」の本体解明は急速に進み、画像診断・内視鏡・医療工学などを活用した診断、治療法も進歩し、治癒率の改善に大きな成果を上げてきていることも事実でございます。

「がん」にうち勝つには、まず「がん検診」を受けて頂くことが大切であります。本大会のスローガンも「がん検診 を受けてかがやく このいのち」とさせて頂きました。来るべき21世紀には、「自分の健康は自分で守る」ことが求められる時代の到来といわれております。それだけに「がん検診」を受けて頂くことの重要性は、ますます重みを増していくものと考えております。

本日の「がん征圧県民大会」が「かがやくいのち」への一助となれば幸いです。





大会組織委員長 村上 郁夫

約3年前、大腸がんを手術で克服された、中原ひとみさんがその体験をとおして定期検診によるがんの早期発見と予防の重要性について、わかりやすく講演されました。

(女優 中原ひとみさんの基調講演「早期発見と予防の重要性」より)

手術の1年位前から、疲れ、貧血、下痢などの症状がありましたが、年のせい、仕事のせいと思っていました。しかし、おなかの異常が気になり検査を受けたところ、便潜血に異常が見つかり、精密検査の結果、すぐ手術することになりました。

医師から、大腸がんの病巣について、かなりオーバーな説明を受けたのですが、初めてのことであり、先生を信頼し手術について恐れはありませんでした。結果は小腸を20cm程度切除し、約2時間で終わりました。術後の経過観察では、1

年毎にポリープが見つかったのですが、それらもすべて切除し、3年目の内視鏡検査でやっとポリープがみつからなくなり、自分のがん発見は手遅れの1歩手前であったことを打ち明けられました。

自分自身の予防に対する反省として、健康であると過信しがんばりすぎたこと、また、仕事から体重制限のため食べる量、水分や野菜の摂取量も少なかったなどの、免疫性を高める努力がたりなかったことがあると思います。最近では、それらの改善策として、身体に良いことの情報の氾濫に対しあまり神経質にならないよう、日本食を基本にバランスのとれた食事や運動不足解消の努力をしています。また生活習慣の改善や、定期的な検査の重要性を改めて感じました。年1度ぐらい「がん」に関して、家族と話し合うことも大切ではないかと思います。



中原ひとみさん

パネルディスカッション 「がん検診の効果的な受診について」

県健康増進課長の檀本真幸氏をコーディネーターに迎え、国立療養所愛媛病院副院長 西村一孝氏、宇和島市生活環境課長補佐 藤堂保健婦、伊予三島市保健センター 宮崎保健婦、重信町福祉課 矢野保健婦、そして住民検診の体験者、重信町の浜田さんの5名のパネリストによるパネルディスカッションが行われました。

体験者の浜田さんは、住民検診で前立腺がん検診(PSA)を受診、早期前立腺がんが見つかり、現在ホルモン療法等で治療中、経過は良好です。ご自身の経験から、「がん」も早期に発見し治療を受ければ、なにも恐ろしい病気ではない、早期発

見のためにも、がん検診を受けましょう、と話されました。

保健婦さんたちは、それぞれの地域でのがん検診を含めた住民検診のユニークな取り組みを熱っぽく話され、住民が市町村を動かし、よりきめの細かい検診が受診できるようアクションを起こしてほしいと要望されました。

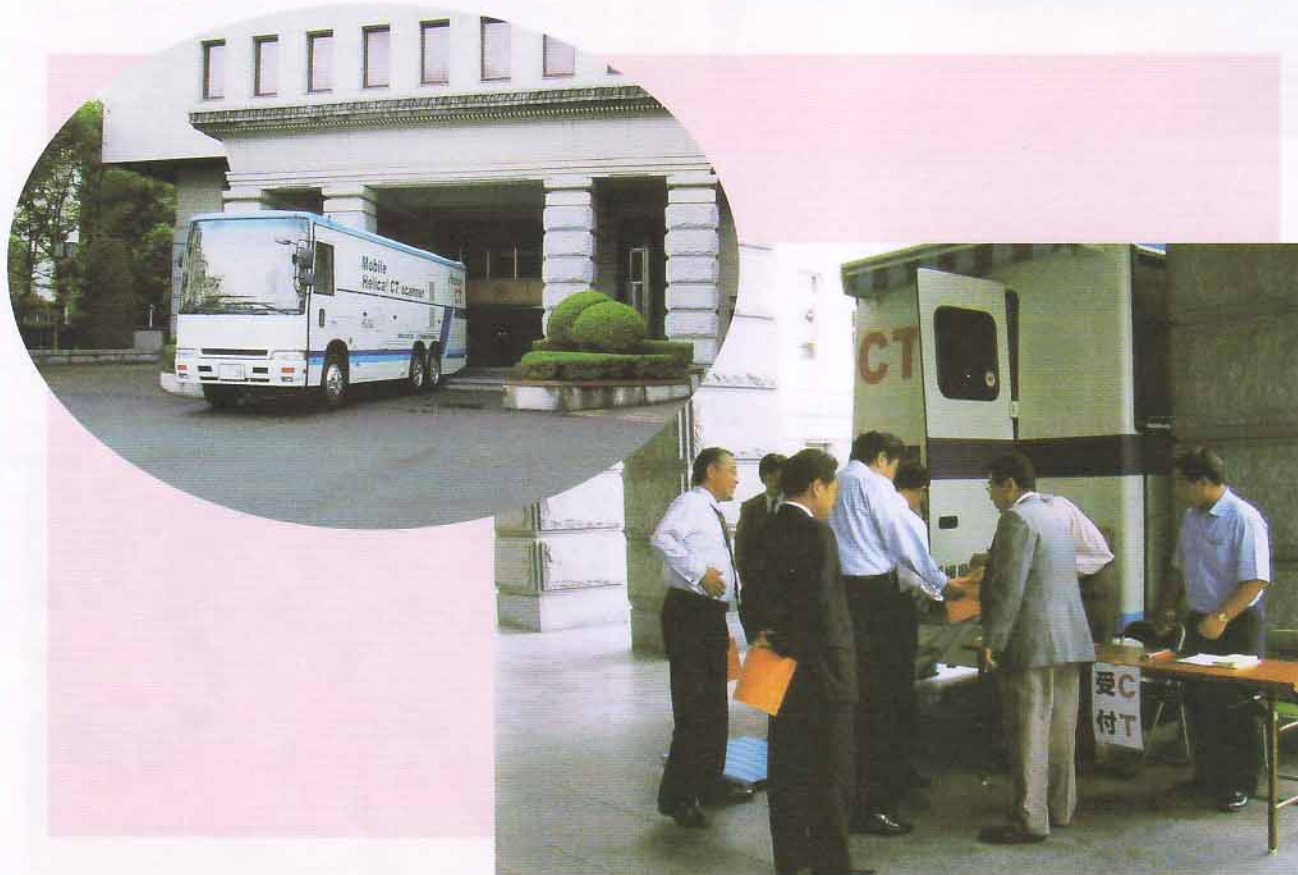
なお、本県の肺がん、乳がんによる死亡率が全国でも上位にあることを意識し、並行して肺がんCT検診・乳がんマンモグラフィ検診の無料検診もおこなわれ、約100名が受診しました。

県議会議員さん肺がんデジタル検診体験

かねてより念願であった県議会議員さんのCT検診車による肺がんデジタル検診が、8月2日、県庁議員会館前にて行われました。

当日、検診現場に愛大医学部放射線科教

授であり、愛媛肺がんを考える会代表世話人でもある池添潤平先生にお越しいただき、その場で撮影された画像とその診断結果を説明し、CTによる肺がん検診の重要性を体験していただきました。



■ 肺がんデジタル検診 CTによる肺がん検診の成果

CR・CT受診者	8,766名
CT受診者	1,617名
要精検者	303名
精密検査受診者	252名
肺がん発見者	14名(うち2名はCRにて発見)

(平成11年11月28日～12年9月30日 報告分)

CTによる発見率:0.74%

$$(14-2) \div 1617 \times 100 = 0.74$$

※通常のX線検査による発見率は、
0.03～0.05%

肺がんデジタル検診は、次のような条件で実施しています。

CT検診

CTバス 全長 10.99m 全幅 2.49m 重量 20.5t

【CT装置】

東芝メディカル社製 Asteion VR
ヘリカルCTスキャナー(車載型)

【撮影条件】

- ・X線管電圧:120kV
- ・X線管電流:25~50mA
(医療機関における一般的な検査の1/4~1/5)
受診者の体格に応じて最適化を心がけています。
- ・回転速度:0.75秒/1回転
- ・テーブル移動速度:20mm/1回転
- ・再構成スライス厚:10mm

【撮像方法】

- ・スキャン開始位置をポジショニングしたあと、リアルタイム再構成画像を観察しながらスキャンし、肺野を撮り終えたところで強制終了させます。



CR検診

CRバス 全長 7.45m 全幅 2.27m 重量 7.9t

【CR装置】

コニカ社製 Regius Model 330M(車載型)

【撮影条件】

- ・X線管電圧:140kV
- ・X線管電流:150~200mA
- ・撮影時間:フォトタイマー制御

【撮像方法】

- ・FFD 200cm
- ・胸部PA1方向撮影



水の健康診断のすすめ

定期的な水の検査で安全を買いませんか？

私たちが年1回、身体の健康診断をするように飲料水も、定期的に検査する必要があります。

水（地下水）も生きています。絶えず流れていく地下水の一部を汲みあげているわけですから、常に同じ水質であるとは限りません。回りの環境の変化にも微妙に影響を受けます。すなわち災害、洪水、宅地造成、道路工事などの影響を受け、水質は変化します。

私たちの身体が、血圧や体温などでその異常を知ることができるように、水は塩素イオン濃度やpH値などでその変化を知ることが出来ます。

水道の水は年1回以上の全項目検査をはじめ、毎日、色、濁り、残留塩素など常に水の健康診断を行い、安全な水を提供しています。

井戸水などは飲用前には有害物質を含まないことを確認するため、全項目を検査することをお勧めします。その後は定期的に簡易項目を行うことにより水質の変化を確認することが出来ます。

(お問い合わせ／環境部
089-941-7977)



<給水栓水(蛇口)の水質管理>

給水栓水に色がついたり、濁ったり、異物が混入することがあった時の原因究明の目安です。

着 色	赤茶色の水	配管内のサビの剥離	鉄の検査
	黒い水	配管内のサビの剥離	マンガンの検査
	青い水	衛生陶器に青色の結晶	銅の検査
	白い水	煮沸すると白濁	亜鉛の検査・硬度の検査
臭 気	金気臭	鉄・マンガン・亜鉛の検査	
	油臭	カuttingオイル・揚水ポンプの機械油	
	泥臭・カビ臭	有機物の腐敗分解・プランクトンの発生	
異 物	油・砂・小石・生物	配管工事時に混入	
味	金属味	鉄・亜鉛等の金属	
	酸味	水の酸が強い	

わたしの街から

伊予三島市保健センター

所長 山川 ヒデノさん

昭和44年に保健婦として伊予三島市役所へ就職、10年間は国保保健婦として国保被保険者を対象に全戸訪問や、レセプトによる重複受診および多受診世帯を主にした家庭訪問を中心に活動しました。昭和53年に市町村保健婦に移管され、乳幼児からお年よりまで住民全体を対象に、母子保健事業、女性の健康づくり事業、成人、老人保健事業を3本柱として保健活動を実施してきました。

検診団体との最初の付き合いは結核予防会の住民検診でした。検診業務は、予防衛生課が担当しておりまして、保健婦のいる課とは違っており、私たちは、予防衛生課から依頼を受け血圧測定を実施してありました。市内全域を20日余りをかけてまわり、1日10数ヶ所、分刻みでの移動、机やイスの出し入れ、受診者全員の血圧測定の実施。受診者が多く血圧測定も途切れることなく大変忙しく、時間に追われておりました。結核予防会のスタッフが、受付や血圧測定の記録を手伝ってくださり、和気あいあいと、住民検診をしたことを記憶しております。

成人病検診は、市町村保健婦に移行した昭和53年頃から取り組んだと思います。そして予防医学協会と出会い、最初は血液検査と尿検査だけを依頼し、あとの心電図検査や血圧測定等は、私たち保健婦が行い、診察は地域の医師会にお願いして実施してお



伊予三島市保健センター

りました。心電図のとり方が、保健婦が慣れていなかった時、協会のスタッフの方に、アドバイスをいただいたのを思い出します。昭和57年に老人保健法が制定され、老人保健事業が市町村にきましてから、保健婦の役割が変わり、成人病検診（基本健康診査）を全項目委託するようになりました、委託検診団体が他にもありましたが、予防医学協会を全面的に信



頼しておりましたので、迷わず予防医学協会に委託しました。今思うとあの時の判断が間違いではなかったと確信しております。しかし長い付き合いの間には、血液検査に必要な注射器や眼底検査の器械を忘れたり等々いろいろなアクシデントがありましたが、今はなつかしい思い出として残っております。

K先生のことを少し書きます。親身になって、住民の話を聞いてくれたり、良いアドバイスをくれた先生、ちょっと、短刀直入に説明され住民に不安を与える面もありましたが、先生に、即、精密検査を勧められ、腎臓がんが早期に発見され、すごく住民から感謝されたことを思い出します。

また、基本健康診査の結果を電算導入するにあたり、カルテの作成について予防医学協会スタッフとひざを交えて検討したことが印象に残っています。無理を聞いてもらったり、反対に無理を聞いたりとコミュニケーションがよくとれ、すごく楽しく仕事ができたように思います。研修会等で合ったとき声をかけあえる間柄になったことをうれしく思います。

平成10年に3団体が統合し、総合保健協会として発足されましたが、初心忘れることなく、あたたかく人間味のある検診団体として、大きく飛躍されることをお祈りします。

編集後記

手さぐりでとりかかった「えひめ健康だより」も、無事、第2号を発行することができました。まだまだ未熟な点多々ありますが、皆さまに楽しく読んでもらえる機関誌を目指して、努力していきたいと思ひます。ご意見、ご要望などありましたら、ぜひ当協会（事業部 業務推進課）までお知らせ下さい。



財団法人 愛媛県総合保健協会

■ 総務部	松山市味酒町1丁目10-5	(089)941-7882
■ 事業部	松山市宮西1丁目5-11	(089)926-7400
■ 健診部	松山市宮田町6-6	(089)941-7905
■ 環境部	松山市味酒町1丁目10-5	(089)941-7977
■ 松山診療所	松山市味酒町1丁目10-5	(089)941-2783
■ 東予支所	新居浜市一宮町1丁目14-18	(0897)32-5428
■ 南予支所	宇和島市鶴島町3-1	(0895)22-3128